

夢じゃーなる

Vol.

13

第4期阪神北地域ビジョン委員会だより

平成20年（2008年）3月

発行／阪神北地域ビジョン委員会
編集／阪神北地域ビジョン委員会広報部会

http://web.pref.hyogo.jp/area/n_hanshin/vision.html

題字：早野 邑水

特集

ビジョン委員会活動グループ 座談会

第1分野 第2分野

「阪神市民文化社会
ビジョンの実現に向けて」

目次

- ◆特集 ビジョン委員会活動グループ 第1分野 第2分野 座談会「阪神市民文化社会ビジョンの実現に向けて」・・・ 2～5
- ◆地域見本市「地域ってこんなところよ、お父さん!」を終えて・・・ 6
- ◆「こどもと地域の環境会議」レポート／「みんなの夢会議」レポート・・・ 7
- ◆家庭の生ゴミを減らして農作業体験したい方集まれ!!／「であいたい紀行」②・・・ 8

特集

第1分野
第2分野

グループ座談会

「阪神市民文化社会ビジョンの実現に向けて」

阪神市民文化社会ビジョンで示された4つの行動目標のうち、『多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる(第1分野①②グループ)』、『自律と協働による温かいコミュニティをつくる(第2分野③④⑤グループ)』の2つの目標に向け活動を続けているグループのみなさんに集まっていただき、座談会を開催しました。

その内容は各グループの活動についてだけでなくとどまらず、議論はビジョン委員の“あり方”にまで及び白熱したものとなりました。以下にその模様を一部抜粋して掲載いたします。

司会は県民局にお願ひし、専門委員の藤本先生(兵庫県立大学自然・環境科学研究所助教)にアドバイザーとして参加いただきました。

『多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる(第1分野)』

県民局：まずは第1分野のみなさんのグループ紹介からお願いします。

A 『じばヤング』です。我々のグループは、多世代交流というキーワードで、若い人たちと高齢者がどうすれば仲良くやっていけるかをテーマに活動しており、グループ名を“爺+婆+若者(ヤング)=じばヤング”といたしました。

最近の活動としては、先日大手前大学(伊丹市)で『若者と語ろう会』と題して、学生たちと『じばヤング』のメンバーがディスカッションをさせていただきました。若い方々の活発なご意見を生の声でたくさん聞くことができ、大変勉強になりました。今後もっと交流を深めていけるような機会をつくっていきたくと考えています。

えています。

B 『ゆったり子育てサポート』グループです。私たちは子育て支援の立場から、子育てに奮闘中のみなさんの現場を見学して、まずは私たち自身が子育てサポートとして何ができるかを勉強していく中から、本来の子育てのあり方を考えていこうと、各地で活動しております。

『自律と協働による温かいコミュニティをつくる(第2分野)』

県民局：続いて第2分野のみなさん、お願いします。

C 『めだか』グループです。私たちのグループは人々との心のふれあいから生まれるネットワークを活かして、誰もが生きることを楽しめるような温かい居場所づくりの実現を目指して活動しています。現在は、各

座談会に参加したグループの活動

第1分野① 多世代交流グループ “じばヤング”

“若者と語ろう会” in 大手前大学

去る1月17日(木)我が多世代交流グループ「じばヤング」のメンバーは住井委員長、八木下副委員長のご参加を頂き、総勢12名で意気軒昂に大手前大学を訪問し、ヤング面々と語らってまいりました。



ヤング達は22名。「じば」と「ヤング」をほぼ均等に4つのグループに分け

① 自分と違う価値観を持つ人とは無理に付き合う必要はない?

② 今の社会は競争社会なのだから「格差」

が存在するのは当たり前?

③ 人目を気にしながら行動する事はあまりない?

というテーマについてそれぞれのグループで討論しました。

①については、自分は自分でいい。無理してまで付き合うことはないという意見が多く、②については、「格差」が生じるのは仕方ないといいつながら「格差」という言葉に抵抗感を持った方もいました。

また、③については、結構人の目を気にする人が多くいました。

いずれのテーマも各班ごとに討論は盛り上がり、時間の足りないグループもあったようでした。

進行役と発表はヤングの方が行いました。

前後に芳田先生の総括のお話があり、あっという間に90分が過ぎ去り私達も心地よい時間だったと感じられました。

ヤング達も自分の人生を前向きに捉えられている様で嬉しく思いました。

最後になりましたが、この会を設けていただいた芳田先生に心よりお礼申し上げます。



地域で活発に活動されている団体を見学に行き、また一緒にお手伝いさせていただく中で活動の方向性を探っている段階ですが、さらに積極的に活動に関わっていくために、メンバー個々がどこかに行ったときに何かできるだけのスキルを持てるように学んでいきたいと考えています。

このメンバーで活動して1年経ち、先日も新年会を盛大に行うなど、メンバー間の和はバッチリです。

D 『明るく楽しく健康づくり』グループです。私たちは、高齢者・障害者のみなさんが文字通り明るく楽しく健康づくりできるように、福祉施設などを対象に出前県民演芸団の派遣を実施しています。各地に演芸団を派遣しており、例えば昨年の11月、川西の『ふれあいサロン』では、マンドリン&ギター演奏を企画したのですが、203名という予想以上の参加者が集まる盛況ぶり、徐々に活動が地域に定着してきていると実感しております。

E 『地域活動のしくみづくり』グループです。我々のグループでは、各地のコミュニティ・自治会・各種団体等の活動状況を調べ、情報の橋渡しをすることで、それぞれの活動に活かしていただくためのしくみづくりを目指して活動しています。まずは地域防災にテーマを絞り、市民フォーラムなどに積極的に参加し、メンバー自身が情報収集と勉強をしているところです。

『ビジョン委員をやってみてよかったこと』

県民局：みなさん、ビジョン委員をされてみて良かったと思われることは何でしょう？

F 何よりも「人」との出会いでしょう。ビジョン委員会を



通じて様々なネットワークができたことがうれしいです。また、市や県といった役所の窓口と直接交渉する経験ができたり、いろんなアイデアを実現するためのキーマンやノウハウを紹介していただけるなど、自らが行政とのパイプ役となることで得ることが多いように思います。

E 地域活動は通常地元レベルの範囲で行われることが多いですが、ビジョン委員をさせていただいたことで、活動範囲が4市1町に拡大しました。これはとても大きいことです。例えば同じ福祉でも、地域によって活動の内容が違っていることがわかったり、元々自分が活動していた地域になかったすばらしい活動に出会えたりすることがあります。

他にも多数意見が出ましたが、やはり活動の仲間・同志が見つかったこと、行政の情報が良くなるようになり、利用しやすくなったこと、といった意見が中心でした。
(編集部)

次ページへ続く

第1分野②「ゆったり子育てサポート」グループ

ゆったり子育てサポートグループは、最終的には就学前の子育て支援を目標に支援場所のマップを作ったり、講師を招いて親子参加の講演会を立案するために4市1町における子育て支援活動の実態を見学することから始めました。

1 平成19年11月16日 「川西市すこやか子供室」

市役所から2名の方が対応して下さって、ガラス張りのプレールームで子育て支援活動の実態を観察しながらお話を聞きました。

当日は15~6組の親子が参加しておられ、親の悩み、こどもの悩みを直接聞くことが出来ました。

皆さんの活動に心からエールを送りました。

2 平成19年11月19日 「宝塚市東公民館 新米ママのふれあいタイム」

保健師お二人を囲み、満1才までの第1子の子供と親御さん20組が参加され、3グループに分かれてレクレーションで、自己紹介のふれあいタイムから赤ちゃん体操等を2日間連続受講しておられました。両親教育インストラクターから暑いときでも出来るだけクーラーを使わず子供のときに汗をかく訓練が大事と指導を受けて、熱心な質疑が交わされておりました。赤ちゃんの声もしてごやかな講座でした。

3 平成19年12月3日 「伊丹市中野北センターさくら子ども広場」

0才~2才までの幼児とおかあさん23人、高齢者サロンの方達9人、サポーター16人の計48名が食育の実習として芋もちづくりの講座

を受講しておられました。食育担当講師から食育五つの力と食事の挨拶の大切さのお話を聞きました。レシビを配ってご家庭でもこどもと一緒に作れるようにしていました。老人会の人達も参加され、世代を超えた和やかな集会でした。

今後の活動予定 三田・猪名川地域への見学を計画しております。これらを終えると、マップづくりの取り組み、子育てをテーマにした講演会などが出来ないか検討していきます。



『ビジョン委員の目指す道』

県民局：活動をされていてお困りのことはありますか？

B ビジョン委員として同じ志の仲間がグループを組んだはずなのですが、いざ活動を始めてみると欠席者が出たりしてなかなかメンバーが集まらないことでしょうか。

F ビジョン委員をされているみなさんは、他にも地域の活動をされている方が多いと思います。その中でいかにビジョン委員の優先順位を上げてもらうかでしょうね。なかなか出て来られないメンバーに根気良く電話を入れてみるなど気遣ってあげることで、参加しやすい環境づくりを心がけるなど工夫も必要でしょう。

D ビジョン委員は自主的な応募で集まったメンバーのはずなので、中々全員が集まらないというのは非常に残念です。

藤本先生 ビジョン委員に限らず、地域活動というのはもともと目標を持った意識の高い方たちが多いので、きっかけ作りが大切でしょう。直接の活動ではないかもしれ

ないですけど、メンバー同士でお茶を飲んだり食事をする機会を設けるなど、ちょっと楽しいことを盛り込む工夫も必要だと思います。仲間の顔が浮かび、集まることが楽しみになれば、行動が変わってくるものです。そういった気配りをする人が自然発生的に出てくるグループは、活動も活性化してくるものです。

G ビジョン委員は予め基礎的なことを学んでから応募することが望ましいですね。全くのゼロからですと、どうしても1年目は活動するための勉強・準備に費やされてしまい、任期の2年があっという間に過ぎてしまいます。ビジョン委員全体がそういう意識の高い方の集まりになれば、出席率の問題も解消されるのではないのでしょうか。

H 理想はそうかもしれませんが、勉強から始めても良いと思いますよ。ビジョン委員への応募が地域活動に関心を持つきっかけになる方もたくさんいらっしゃるでしょうし、あまりハードルを高くしてしまうと、「草の根の拡がり」の芽を摘んでしまうことにもなりかねませんから。

C 非常に良いことをやろうとして高い目標を掲げて

第2分野③ めだかグループ

めだかグループは、地域で活発に活動している団体等を訪問し、活動の方向性を考えてきました。今回は訪問した団体の様子を紹介します。



昨年8月23日、伊丹市の緑ヶ丘公園センターでソーメン流しや子ども広場が開かれました。

ここでは平成10年から「瑞穂子育て交流ルーム実行委員会」が地域を育てる

仲間づくりと言うことで、自然に恵まれた緑ヶ丘公園に子ども達の健やかな成長と生きる力を育む環境づくりをめざして、幼稚園に入る前の3歳児～4歳児32名の協同保育と異世代交流(0歳児から高齢者までの方)で、幼児へのお話し会や絵本の読み聞かせ、あそびの広場等を行っています。

ここで育った幼稚園児や小学校に上がった子どもや親たち100人以上が参加して、素晴らしいイベントが行われました。

伊丹市立中央公民館の野遊びグループのメンバーが協力して、葉っぱでお面を作ったり、ミニチュアの電車遊びや、工作をしたりとすごく盛り上がりました。

ソーメン流しのための竹で桶を作ったり、調理場ではソーメンを湯がいたり出し汁を作ったりと、舞台裏での地域の皆さんの協力も大きかったです。



第2分野④ 「明るく楽しく健康づくり」グループ

第4期出前県民演芸団
〈はじまるよ〜〉
公演を順次開催!!

平成19年11月29日(木)川西小地区福祉委員会主催の「高齢者ふれあいサロン」において、出前県民演芸団の第1回活動を開始しました。

なぞ)もすぐに答えが帰ってくるお元気な高齢者のみなさんと、最後はサロンのテーマソング?「星影のワルツ」を大合唱。会場われんばかりの拍手で、「ありがとう」「また来て下さい」と声をかけていただき、再会できることを楽しみに終了しました。

主催者のふれあいサロン運営部



JA兵庫六甲川西の3階ホールには、200余名の大勢の参加者を迎え、今回は、〈アンサンブル・コパン〉マンドリンギター演奏を楽しんでいただきました。なつかしい唄や唱歌なども合唱し、日頃聞くことの少ない繊細で何か昔を思い出すかの様な音色に聞き惚れていました。お茶タイムのクイズ(なぞ

会長からは、「参加者は、配布していただいた歌詞カードを見ながら大きな声で歌っておられました。アンサンブル・コパンと阪神北地域ビジョン委員会の方々に感謝いたします。」とのお礼をいただき、参加者からは、「なつかしい唄や童謡などを演奏していただき、4曲を高齢者とは思えないほどの元気な声で

いても、自らのグループ内にいる弱い人(参加して来られない方)を切り捨ててしまっているケースがあります。私は、ボランティアは多数決でものごとを決めてしまわず、できるだけみんなの意見を聞いた上で共通項を見出していくべきだと考えて、自分のグループでも実践するよう心がけています。

I そもそもビジョン委員の役割について再確認したいです。ビジョン委員とは地域の活性化のために自らが行動していく立場なのか、それとも地域を元気にするために地域の人々を動かすための働きかけをする立場なのでしょうか。前者は自分たちががんばればそのまま結果につながることであり、ある意味楽と言えると思うのですが、後者はなかなかエネルギーのいるたいへんなことです。

藤本先生 阪神北とひとことで言っても大変広いエリアになります。異なる地域性を持った様々なエリアから集まってきた人々からなる組織だからこそできることもあると思います。

地域に対して働きかけをしていくときには、いきなり大きな目標を設定せず、細かく実現可能なシナリオ

を組んで、ひとつずつ実現させていく。そうした活動の積み重ねが地域を動かす、地域を変えていくことにつながっていくのだと思います。

地域活動の手法は多様であって良いと思います。いろいろなカリキュラムを用意しても、押し付けでは身につけません。どんなに良い内容も理屈だけではダメなんですね。全然伝わりません。主体的に活動に参加するようになるためには実際にやってみてその楽しさや達成感を実感することが一番効果的です。ビジョン委員会の進め方もそのような実感を大切にすればなればおもしろいと思いますね。

県民局：話はつきませんが、2008年もみなさんのグループの活動に大いに期待しています。みなさん、今日はどうもありがとうございました。

予定時間を1時間近く超過して、座談会は大いにヒートアップしました。ビジョン委員の任期は1期2年になっており、2期まで再任が可能になっています。初めは要領を得ず試行錯誤でスタートされた方も、2期目には先輩として新たに参画された方々をリードしていく立場になっていきます。私たちビジョン委員は、ビジョン委員の活動の輪を着実に広げていくことで阪神北地域のポテンシャルのさらなる向上を目指していきます!ご支援よろしくをお願いします。

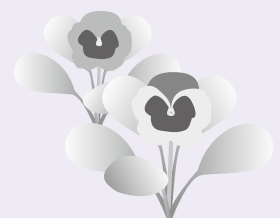
座談会に参加したグループの活動

第2分野⑤「地域活動のしくみづくり」グループ

地域活動を考える時、意外と自分が暮らす地域のことを知らないということに直面しました。

まずは自分の暮らす地域を見ると、子どもから高齢者まで幾世代もの人が暮らしていて、世代ごとに望ましい状況が少しずつ違うことに気がきます。若い世代にとっては、商店街や飲食店は子ども連れでも気軽に行けるような開放的な方が望ましいでしょう。高齢者は静かにゆったりと暮らせる街であって欲しいと願います。こう考えると同じ地域で多世代が暮らしていくことは難しいようですが、その実若い人は落ち着いた生活を求め、高齢者は活気溢れる街を望んでいることにも気がかされます。そして世代に関係なく望まれているのは安心して暮らせる街であること、終の棲家に値する**夢と希望のしくみ**が求められているのだと感じます。

地域活動のしくみづくりグループでは、阪神・淡路大震災を教訓に全国的にシステム作りが進められている『災害時要援護者支援制度』について考えてみることにしました。4市1町取り組みはそれぞれですが、まずは川西市の取り組みを考えることから始めています。今後は4市1町の『災害時要援護者支援制度』の取り組み状況をまとめていきます。そしてそれが、皆さんの地域での防災を考えるときの参考になればと思います。



合唱しました。日本叙情歌集の中から5曲弾いて下さったのですが、なつかしい曲ばかり。ちょっと昔を思い出しました。演奏して下さいました。ご年配の方もお見受けしましたが、いつまでも音楽に関わり、多方面に活躍されている姿に感動しました。」との感想をいただきました。

雪がちらつく朝を迎えた平成20年1月14日(月・祝)には、猪名川町ゆうあいセンターからの出前演芸依頼があり、デイサービスセンター食堂ルームで、一昨年に続いて、伊丹大道芸サークルによる「**南京玉すだれ・皿まわし**」の出し物で、新年にふさわしく、にぎやかに第2回の活動を開催しました。



会場は、50名余りの通所のみなさんと介護職員を迎えて、短い時間でしたが、南京玉すだれの妙技にびっくりしながら、何ができあがるのか目を白黒させて拍手喝さい。また皿まわしでは、その道具を手に笑顔いっぱい掛け声をかけながら体験してもらい、お元気な高齢者の方々とふれあう楽しいひと時を過ごすことができました。

3月16日には、伊丹市の有岡センターで「**和太鼓のみり**」による勇壮で迫力満点の和太鼓を演奏します。また、4月20日には、伊丹市の神津福祉センター・ときめきホールで和太鼓、唄・新舞踊、落語、大道芸による出前演芸を開催していく予定です。グループ全員も楽しみながら頑張ってお参ります。

当グループの名称につきまして、グループ内で再度検討した結果、当初の「明るく楽しく健康創り」から「明るく楽しく健康づくり」に変更することになりました。

① シンボルプロジェクトグループ

地域見本市
『地域ってこんなとこよ、お父さん!』を終えて

シンボルプロジェクトグループ 内田代表インタビュー

『地域活動を“楽しもう”』



堀尾アナウンサー講演風景

2007年11月25日(日)、宝塚市ぶらざこむ1に於いて開催されたシンボルプロジェクト・地域見本市『地域ってこんなとこよ、お父さん!』は、自分たちの生活している地域の良さや、地域の人と人のつながりの大切さの再発見を通じて、地域に対する愛着を高めてもらい、積極的に地域活動に取り組んでいただこうと開催したイベントで、地域活動団体等のパネル展示や、NHKの堀尾アナウンサーの基調講演『難問解決!近所の底力〜知恵と工夫のまちづくりをめざして〜』、県立人と自然の博物館副館長・兵庫県立大学教授の中瀬勲先生にコーディネーターをお願いし、堀尾アナウンサーや実際に地域活動をされている方を交えてのパネルディスカッション『ここから始まるまちづくり』が行われました。



地域見本市

編集部 シンボルプロジェクトを無事終えられまして、感想をお聞かせください。

内田 まずは、当日お集まりいただいたみなさん、スタッフとして協力していただいたビジョン委員の各グループのみなさんにこの場を借りてお礼を申し上げます。シンボルプロジェクトの開催にあたりましては、昨年の6月頃からグループ会議を繰り返してきました。最初は何をするべきかイメージがでず、どうなることかなと思っていましたが、会議を重ねていくうちに『みんなで楽しめたら良いな』という気持ちが強くなって、『**ビジョン委員のお祭り**』という位置づけで、みんなで盛り上げてやろうと企画を進めるようになり、自信も出てきました。無事に終わってまずはホッとしています。

編集部 地域見本市やシンポジウムと盛りだくさんだったわけですが、反響はいかがでしたか?

内田 地域見本市では、阪神北地域の4市1町から66もの団体の参加があり、パネル展示等による活動紹介が行われました。スペースが限られたものであったため、必ずしも十分なプレゼンテーションができたわけではないかもしれませんが、地域の中でこれだけ活発に活動されている団体がいらっしゃるということが再認識できて、大変勇気付けられましたね。

また、シンポジウムでは、NHKアナウンサーの堀尾正明氏が、ご自身の出演されている番組を通じて全国各地を見てこられた経験をユ・モアあふれる語り口で話され、パネルディスカッションでは、この阪神北地域で実際に地域活動に携わっておられるパネリストの方々から、地域づくりの現場の生の声をたくさん聞くことができ、スタッフも含め多くの参加者が大変有意義な時間を過ごすことができましたと感じています。

編集部 当日参加できなかった県民のみなさんもたくさんいらっしゃいます。そういった方々へのメッセージをお願いします。

内田 昨年のシンボルプロジェクトには300人にものぼる県民のみなさんがお集まりいただきました。予想人数を上回る参加状況だったわけですが、実はもっとたくさんの方に

お越しいただきたいという気持ちも持っていました。それは、私たちの阪神北地域にお住まいのみなさんがもっとも自分たちの地域のことに興味を持っていただき、積極的に自らが活動の輪の中に入ってきて楽しんでほしいからです。今年も秋頃にビジョン委員の祭りとして、地域見本市がみんな楽しくできたらと思っていますので、是非次回は足を運んでください。

編集部 内田さんのお話の中に再三『楽しく』という言葉が出てきましたね。

内田 出会いがあって、楽しくやれることが大事。自分自身が楽しめないとなかなか継続してできないです。私は、地元の伊丹では『セカンドライブを楽しむ会』というボランティア団体を立ち上げ、メンバーみな楽しくやっています。ビジョン委員でも共通の目的の中で新しい出会いがあり、楽しみを多く見つけていきたいと思っています。

先ほども申しましたとおり、地域見本市はビジョン委員のお祭りにしたいのです。お祭りなのだから、我々のグループがやると言うよりは、ビジョン委員みんなで創りあげるようなシンボルプロジェクトをやりたいですね。テーマが違うと他のグループのことは関心がないと言うのが常ですが、ビジョン委員会という大きなくりの中では“同志”ということで、やり方次第でこれまで以上にビジョン委員同士の横のつながりが強まり、こういう機会を通じてお互いの理解を深めていきたいと考えています。現役で仕事を持っておられる方や他の予定をたくさんお持ちでお忙しい方、それぞれの立場や取り組み方があると思うので、自分ができる範囲で参加いただき、楽しんでいただきたいと思います。

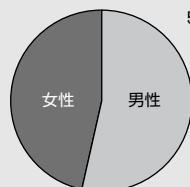
一般県民の地域活動に対する意識を高めていただきたいという思いと、ビジョン委員同士の横のつながりを強化する役割をシンボルプロジェクトが担えたらと言う気持ちがあります。次回の企画に活かしていきたいです。

編集部 今年のシンボルプロジェクトも、期待しております。ありがとうございました。

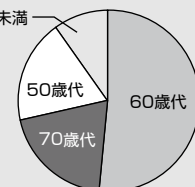
参加者アンケートの結果から

地域の皆さんに、地域づくり活動を知ってもらおう、地域への愛着を深めてもらおう、といった思いで企画した地域見本市ですが、参加した皆さんはどのような方々なのでしょう。地域見本市参加者のアンケートを基に参加者の年齢層や意見等をまとめてみました。

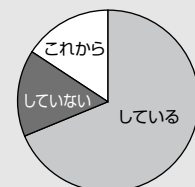
○ 男女別参加者



○ 参加者年齢層



○ 地域における活動



○ 主な意見

- ・ 地域活動においては、横のつながりを広げていくことが大切だと思った。
- ・ 強い志を持つ人を支援するくらいのは今後したいと思う。
- ・ 現状認識できたので地域デビューしやすくなった。
- ・ 色々な分野でシニアが頑張っているのが分かった。若い人も頑張りたい。

第3分野⑨こどもと地域の環境会議グループ

『こどもと地域の環境会議』レポート

昨年12月9日(日)三田市まちづくり協働センター(三田市駅前町)で『こどもと地域の環境会議』が開催されました。ビジョン委員会の第3分野第9グループは、第1部『楽しく学べる環境学習』を担当しました。『三田の民話』編集委員渡辺先生、百石踊り上谷地区保存会の南会長の協力をいただき、三田市に500年前から伝わる『百石踊り』のお話を紹介し、『水の大切さ』について参加者に訴えかけました。

『環境のお話『考えてみよう!!水の大切さ』』から

地球は「水の惑星」…“命の水”淡水は地球上の水の約3.0%しかありません。この淡水ができるしくみを「降った雨の行方」を図解学びました。

森林は緑のダム…森林の土が水を溜める様子を図解学びました。

私たちのくらしと水…人間の身体は約70%が水でできています。私たちの毎日の生活に必要な水「生活用水」について学びました。

くらしに必要な「上水道水」…「上水道水」が家庭に届くまでの様子を図解学びました。

汚れた水のゆくえ…逆に使った後の汚れた水が処理される様子を下水処理場の図解で学びました。

水の有効利用…水の再使用・再利用について学びました。

私たちにもできる水の節水方法…私たちが生活の中でできる節水方法について学びました。

最後に…ケニアで環境副大臣をされていたワンガリ・マータイさんが来日された時感動したとして話題になった「もったいない」という言葉に込められた『自然の恵みに感謝し、自然と共に生き、物やエネルギーを大切に使う気持ち』について、みんなで考えてみました。



会議に参加した小学生たちは、環境のお話熱心に耳を傾けた後、引き続きビジョン委員による『阪神北こども環境クイズ』で楽しみながら環境について学びました。

みなさんも挑戦してみましょう!(当日出題された問題の一部です)

【1】日本人ひとりが1日に使う水の量は、平均するとバケツ何杯くらいでしょうか?(1杯は10ℓとします。)

- ①3杯 ②8杯 ③30杯

【2】森林は「緑のダム」といわれています。では、ダムと言われるほどのたくさんの水を森林はどこに蓄えているのでしょうか?

- ①森林の土の中
②木々の葉や草の表面
③森林の中の沢や湿地

解説

(1)1日平均314ℓ、バケツ約30杯分です。

40年前と比べると約2倍になっています。たくさん使っていますね!

(2)森林の土の中です。

森林の土の中では落ち葉が積み重なり、また、昆虫や小さな動物、木の根などが岩石や石の間に空間を作り、そこに多くの水を溜めます。これらの水が地下水となり、ゆっくり沢や池に流れ出します。

解答/【1】③、【2】①

地域づくりと団塊世代を考える ～「みんなの夢会議」伊丹市で開催!!～

地域活動の担い手として期待されている“団塊の世代”と地域社会との関わり方などを考えるため、「地域づくり+団塊世代」をテーマに、昨年12月22日に伊丹市の大手前大学で「みんなの夢会議」が開催されました。県下各地の地域ビジョン委員を中心に150名を超える参加者が集まり、生涯学習カリキュラムや新たなしごとづくりへの挑戦等の5つの分科会やこれらの分科会の成果を持ち寄った参加者全員の意見交換により、活発な議論が繰り広げられました。

阪神北地域ビジョン委員会は、分科会「魅力あるシニア」を担当しました。分科会では、定年後の会社人間が地域社会で活動していくためにはどうすれば良いかについて、「知恵」、「鎧」、「異種接近」の観点からグループディスカッションを行い、「女性のネットワークの活用」、「生きがいを見つけること」、「健康で前向きな姿勢」、等の重要性が指摘されました。

意見交換は、大手前大学の芳田准教授のコーディネートにより、井戸敏三兵庫県知事、大阪市立大学の服部准教授をコメントーターに、参加者全員で行われました。

各分科会の発表や会場からの様々な意見に対して、服部先生は、「年代順ではないリーダー作り」、「他世代のことを知ること」、「自分に何ができるかということを自らに問うこと」について、井戸知事は「身につけた知識を生かしていく場を探すこと」、「世代間・地域間の差異の受容」、「お祭り・イベントとリーダー作り」といった点についてコメントされ、これからの地域づくりにあたって示唆に富む有意義な会議となりました。



第3分野⑧「らぼ・こどもと・ゴミ環境」グループ

家庭の生ゴミを減らして農作業体験したい方集まれ!!

参加者募集



ダンボールコンポスト説明会

阪神北地域ビジョン委員会「らぼ・こどもと・ゴミ環境」グループは、ダンボール箱を利用した生ゴミの堆肥化(ダンボールコンポスト)を広め、その堆肥を利用した農作業体験を提供する活動を計画してきました。

このたび、活動の詳細が決まりましたので、参加者を募集します。

この活動を通じて、家庭から出る生ゴミの削減や身近な環境を大切に思う気持ちが阪神北地域に広がるようメンバー一同努力してまいります。

○ 募集内容

事業内容	対象	募集期間	
ダンボールコンポスト説明会	ご希望の団体等にダンボールコンポストの説明会を行います。実施場所は相談に応じます。	阪神北地域(三田市、伊丹市、川西市、宝塚市、猪名川町)を活動拠点としている団体等	随時
農作業体験(植付、農作物の世話、収穫)	グループが用意した農園(三田市藍地区)で、生ゴミから作った堆肥を利用して農作業を体験してみませんか?	阪神北地域内にお住まいで、小中学生や幼児のいる家庭やその他興味のある人等	11月30日まで

* 保険加入その他、参加するにあたっての条件があります。また、農作業体験については応募時期によって体験できる作業内容が変わります。

○ 申し込み先 / 阪神北県民局地域ビジョン課 TEL 0797-83-3119 FAX 0797-86-4379

第4分野⑩「であいたい」

であいたい紀行 ②

第4分野10グループ「であいたい」は、地域に愛着を持ち、脈々と受け継がれている歴史・文化があることに誇りを持つ面々が集ったグループで、阪神北地区の『街道』を訪ね、地域の歴史や文化を学び、それを地域のみなさんへ発信することで関心を高めていただこうと活動しています。

今回は昨年の9月26日に行われた三田地区「丹波路(主として三田市内及びその周辺)の史跡を訪ねて」の散策をレポートいたします。



旧九鬼家住宅資料館

まずJR三田駅に集合、次の経路を歩いた。

三田駅 — 車瀬橋 — 本町通り — 旧九鬼家住宅資料館

この旧九鬼家住宅は三田藩家老職宅で、明治初期に建てられた擬洋風建築の建物で、和洋混在の特色がうかがわれます。住宅

の設計は当主であった隆範氏が行いました。

三田城跡 — 三田大池 — この附近に元良勇次郎(心理学者)・川本幸民(ビール創始者)の記念碑 — 天満神社

この一帯には8世紀創建という金心寺があり、三田という地名はこの

本尊の胎内にこの文字が見られたことに由来すると言われています。金心寺は明治2年に現在の場所に移築されました。天満神社は三田城下のうぶすな神であり、鳥羽より転封のとき以来九鬼家の代々の祈願所となりました。また、この神社の裏の公園の記念碑を見れば最新の項



三田天満神社

お詫び・訂正

前号(第12号)記載の内容に間違いがありましたので、お詫びし、次の通り訂正いたします。

七頁

(誤) 兵庫県立大学自然・環境科学研究所助教 藤本真里

(正) 兵庫県立大学自然・環境科学研究所助教 藤本真里

の藩の様子がよくわかります。

金心寺 — 心月院 — 歴史資料収蔵センター

この資料収蔵センターの附近は武家屋敷町といわれ、明治初期に活躍した川本幸民・白州退藏などの生誕地があり、前者はビールの試作者として、後者は藩政・経済の建直しに貢献した人として知られています。

心月院は九鬼家の菩提寺で歴代藩主や白州家の墓があります。

川本幸民蘭学塾跡 — 小寺公園 — 寺町(3寺) — 光明寺 — JR三田駅



心月院



小寺公園

この一帯はかつての町民居住地域で、三寺(妙三寺・正覚寺・西方寺)の寺町として存在し、小寺公園は三田学園の創始者小寺謙吉の父泰次郎の屋敷跡で、泰次郎は神戸に出て大実業家となり名園「相樂園」を創りました。

われわれは最初は三田市内の史跡を訪ねて散策、更に丹波路を北へ進めていこうと計画したのですが、何分時間的にまた脚力に限界があり、今回は旧市内に限定し、飛鳥時代の金心寺跡及び鳥羽から転封された九鬼家城下町の歴史・文化と現在の三田市の関係をレポートすることに留めました。

今後、機会があれば丹波路を北に向けて歴史を訪ね散策する計画を立て、これを充実していきたいと思っております。

編集後記

特集の座談会は普段なかなか交流のできないグループ間で率直に意見交換ができ、他にも紙面が許せばご紹介しなかった意見が盛りだくさんでした。

お忙しい中快く協力くださいました専門委員の藤本先生に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

お問い合わせ先 / 兵庫県阪神北県民局地域ビジョン課

宝塚市旭町二丁目四番十五号

電話 0797-83-3119